

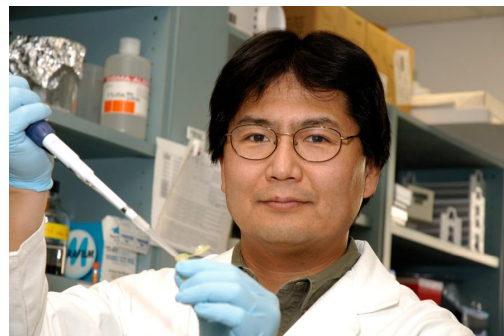
Program Director

《挨拶》

第一回 **Noguchi Summer Medical School** 開催にあたり：

「魅力ある医学教育とは？」

Program Director, Noguchi Summer Medical School
Pediatric Cardiologist, Nemours Cardiac Center
Alfred I. duPont Hospital for Children
Wilmington, DE
Associate Professor of Pediatrics
Thomas Jefferson University, Jefferson Medical College
Philadelphia, PA
米国財団法人野口医学研究所常務理事
津田 武



私が医学部を卒業して以来、現在ほど「医学教育」に強い関心が持たれている時期はこれまでなかったと思います。従来日本の卒前教育は、教室で教官が学生に向けて知識を一方的に伝授するのが主体で、学生はそれを如何に理解し効率よく暗記することが将来医師となるための重要な試金石とされました。しかしながら現代の生命医科学・科学技術の目覚ましい発達とインターネットの普及に伴う半ば無制限な情報公開により、医学生や医師が修得すべき医学知識は膨大となり、従来知識伝授を優先する教育法には限界が見えてきました。保持する医学知識の多寡を問うことよりも、実在する膨大な情報から如何に必要不可欠な情報を選択し、その情報を基にどれだけプロフェッショナルとして正しい判断ができるかということの方が、医師としてより重要な資質として求められるようになったのは自然の道理だと思われまます。「医学教育の改革・改善」は、このような多様で複雑化しつつある現代という時代が提出した必然の課題と認識すべきです。今の日本の医学教育が「時代」の要求に充分応えていないことが、現在の医療全般における大きな混乱の一因になっているのではないかと考えられます。

このような状況の中で、私達は、今回医学部の5・6学生を対象に3日間の小グループによる夏期セミナーを計画しました。このセミナーでは、臨床における **Problem oriented solving** と **Critical thinking** の訓練・実践を実際の臨床例から学ぶことを主目標としています。具体的には、患者から如何にして重要な情報を得て、その情報から患者の病態を推理し、その上で病態を証明するために必要な臨床検査の必然性を説明でき、その上で正しい診断・治療に導いていくかというアプローチです。これは、米国の教育病院ではどこでも毎朝 **Morning Report** という形式で定着している教育方法ですが、残念ながら日本ではあまり行なわれていません。この際非常に重要視されるのが、医師による正確な病歴 **History** と身体所見 **Physical** の獲得とそれらを基にした病態生理の推理で、この能力が臨床医の「基本中の基本」として尊重されています。そして患者の訴える症状や身体所見が、推理された病態から全て説明できるかという点に関して、いろいろな方面から多くの厳しい質問・議論がなされます。臨床検査や画像診断はあくまで **History** と **Physical** で得た「仮説」を証明するために使われるものです。この科学的手法は、日本の医学教育現場でももっと取り入れられて良いものだと思っています。

医学教育に関しては、日本は米国から学ぶことがまだ随分あります。これは、日本と米国の両方の臨床教育・研修を経験した私達の仲間の共通した結論です。米国ではウィリアム・オスラーの時代から、ベッドサイドで遭遇する諸問題を医師が積極的に見つけ出し、その問題点を科学的に分析して解決していくというアプローチが臨床トレーニングの本道として定着しています。患者の訴える「言葉」と医師が知りうる「身体所見」の中から患者の病態生理を推理し、その知的推論から如何にして正しい診断と適切な治療を導いていくかという教育法は、まだ日本ではまだ一般的ではないかも知れません。教育の大半は、基本となる病態推理とその論理的展開の妥当性を問う議論に費やされます。実際優れた臨床医は、シャーロック・ホームズ顔負けの「推理」をします。今回のセミナーでは、皆様と一緒に「病歴」と「身体所見」から如何に正しく診断・治療に導いていくかという訓練をします。このアプローチは、慣れてくれば誰でもできる方法で、日本でも是非とも広めていきたい有用な教育法です。このような教育法に興味のある臨床教育担当医師の皆様には、Faculty Developmentの一貫として積極的な見学・参加をも歓迎いたします。

私達がこの Summer Medical School で強調したいのは、学生達が積極的にグループの議論に「参加」していく教育法であり、これが私達の目指す学生による Active Learning です。「魅力ある教育」とは、学習過程の中で学生が自然に感じる事の出来る「知的興奮の高まり」、「達成感」、「自己成長」、そして「自信」を実感させることができる教育なのではないかと思えます。そのため私達講師陣 Faculty は、積極的に参加者との相互交流を図り、参加者への feedback を行います。また学生の皆様にとっては「医学教育」を離れ、医師としての「将来」、「人生」、「到達目標」、「挑戦」、「キャリア形成」などを非公式に語り合うまたとない貴重な機会となるでしょう。この夏、皆様とお会いできるのを非常に楽しみにしています。

最後に今回ご後援頂いた亀田総合病院には、この場を借りて心から御礼申し上げたいと思います。

平成 21 年 5 月吉日